

特集 はじめにイメージありき 木村重信先生のご業績をたどる

小川 勝 編・解説

カラーグラヴィア：はじめにイメージありき 木村重信先生のご業績をたどる

神林恒道 木村重信の美学——反美学的考察としての「民族芸術学」

小川 勝 木村重信の洞窟壁画論：呪術説をめぐって

吉田憲司 民族芸術学の構想——その成立と現代的意義

福本繁樹 アマチュアリズムと当事者研究

大久保恭子 交差する美術史学と民族学——現代美術への独創的アプローチ

中塚宏行 木村重信の現代美術観と美術館

シンポジウム 民族藝術と聖地：芸術と場所の結びつき

小川 勝 民族藝術と聖地：芸術と場所の結びつき

島本 浣 芸術はいかに「聖地」を創り出したのか——近代における風景画家・巡礼・観光

五十嵐ジャンヌ 洞窟壁画と「聖地」——ヨーロッパ後期旧石器時代における洞窟の「聖域化」

木水千里 「聖地」という視点からみた近代芸術におけるアルバート・C. バーンズのアメリカ性

内藤久子 チェコ民族主義の音楽と聖地 ——「リブシェ神話」と「フス教徒運動」の視座から

民族芸術学の諸相

中村光江 民俗芸能の伝承について——黒森神楽を事例として

喜嶋奈津代 會津八一の書と刻字——歌碑を中心に

服部 正 障がい者アートとしての和製アール・ブリュット

村山佳寿子 東京盲学校における箏曲の点字記譜法について——点字楽譜『宮城道雄作曲集』を例として

伊東一郎 日本に於けるロシア民謡の複線的受容——時代と変遷

斎藤慶子 バレエ『まりも』（1962年）と社会主義リアリズム——アイヌにまつわる創作伝説のソヴェト・バレエ化

長井 誠 大阪日本民芸館創設の貢献者——大原總一郎から弘世現

佐藤若菜 中国貴州省のミャオ族における民族衣装の物質性——上衣の製作に着目して

上 なつき・西垣 安比古 『金瓶梅』に登場する西門慶邸宅の平面構成に示される諸場所の意味

中村友代 《ポロス・メダリオン》の図像に関する一考察——アレクサンドロス大王の肖像表現を手がかりに

亀井哲也 ンデベレ壁絵文化の海外発信

民族芸術学の現場

乾 淑子 第57回 ベネチアビエンナーレ 2017——純粹芸術は社会にコミットしないという日本的常識

畑井 恵 Passage Tells: Shibuya —物語るまちの声

佐藤真実子 アドルフ・ヴェルブリ—アール・ブリュットのその先に立つ芸術家

堤 春恵 歌舞伎をめぐる冒険

金原宏行 「美しき庭園画の世界——江戸絵画に見る現実の理想郷」展を見て

堀切正人 登呂遺跡で生まれる市民のアート

伊従 勉 「日本の家」展にみる日本住宅の袋小路

樋口騰迪 「クロオデルの能」——新作能『面影』見聞記

山本真紗子 神戸「シルク・ロード」の今を訪ねて

南城 守 「幻」と「現存」と——奈良ゆかりの画家による展覧会

吉村良夫 民族の伝統よりグローバルな創造感覚が目立つ

中塚宏行 大阪の戦後版画史をたどって
中西 學 新古宮展——歴史的建造物と現代アートとの交差
中尾 薫 劇場「WAKABACHO WHARF」のオープン——越境者たちが立ち寄り「滞在する」埠頭、佐藤信の終わりなき旅
小野尚子 《スラヴ叙事詩》の国外展示について
川田都樹子 さまざまな 100 周年記念
佐々木千恵 革新×伝統／地域
吉原美恵子 今村源：ヒカリにかえる
吉岡一洋 地域芸術と絵金
上原真依 アジアの多様な芸術文化の発信拠点として——国立故宫博物院南部院區の試み
竹口浩司 旅する布と、羽を持つ希望 —— ひろいのぶこさんの実践
小林純子 山城知佳子『土の人』と 3 本のダンス映画

第 14 回木村重信民族藝術学会賞

伊東信宏 徳丸吉彦著『ミュージックスとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』
川田都樹子 桑島秀樹著『生と死のケルト美学——アイルランド映画に読むヨーロッパ文化の古層』

大会報告

小川 勝 第 33 回民族藝術学会大会報告

彙報